

研究テーマ ブラシの種類別による舌清掃効果～舌の菌量の変化より～

施設名 西伊豆病院

発表者 ○川添裕樹 山本明子 繁田考祝 福本奈穂 大石良江

概要

【研究背景】

近年、口腔ケアに対する知識の普及により口腔ケアへの意識の向上がみられ、舌等の口腔全体の清掃に関心が高まってきている。

舌清掃は、誤嚥性肺炎、口臭予防という視点からも重要である。近年、形態が異なるブラシが多種開発されているが、歯科医療従事者以外のスタッフが適切なブラシを選択することは困難である。

そこで、各種ブラシの舌清掃の効果を比較検討することとした。有歯顎患者では歯周の菌が結果に影響しうると考え、無歯顎患者のみを対象とした。

【研究目的】

3種類のブラシ（歯ブラシ、舌ブラシ、スポンジブラシ）を使用し口腔ケア前後の菌の変化を知り、有効なブラシの選択を行うための資料とする。

【研究方法】

1. 対象者：無歯顎の入院患者 28 名
2. 研究期間：2012 年 8 月～9 月
3. 使用物品：
 - ・清掃ブラシ：歯ブラシ、舌ブラシ、スポンジブラシ
 - ・菌測定道具：くるりんチェック®（アドバンステクニクス株式会社）
4. 手技：歯科衛生士の指導を受けて統一した方法で、舌のみの清掃を 1 分間行った。
5. 測定方法：口腔ケア実施前後の菌量（くるりんチェック®1～5 0.5 刻みの 9 段階）にて測定
6. ブラシの保管方法：水道水で洗浄し研究用の紙コップにブラシの先端を上にして立て風通しの良い所に置き充分乾燥させ、メンバー以外は使用しないこととした。
7. 分析方法：3 種類のブラシの口腔ケア前後の菌量の差をそれぞれ比較し Wilcoxon 検定で有意性を検定した。次に、3 種類のブラシ間の口腔ケア前後の菌量の変動幅を比較して

Mann-Whitney の U (Kruskal-Wallis) 検定で有意性を検定した。

【結果】

- ・3 種類のブラシの口腔ケアの前後の菌量の比較では、すべて有意に菌量が減少した。（ $p < 0.01$ ）。
- ・3 種類のブラシ間の菌量については、口腔ケア前後とも有意差はみられなかった。（ $p > 0.05$ ）。

【考察】

当初は、舌ブラシや歯ブラシは菌の減少に十分有効であるのに対し、スポンジブラシはあまり有効でないと考えていた。

しかし予想に反し、3 種類のブラシ間では、口腔ケア実施前後とも菌量の差はみられなかった。また、どのブラシを使用しても清掃後に、有意に菌量が減少し舌苔除去効果は明らかとなった。

本研究では、ブラシの選択により清掃の効果が見られなかった為、様々な種類の物品を患者の口腔内の状況に応じて選択して口腔ケアを行うことが必要と思われた。1 分間という短い時間の介入でも十分に菌量が減少したことを踏まえて、短時間でも毎日継続的に舌清掃を行っていくことが大事であると考えた。

今後、口腔ケアの基準を作成していく際、舌清掃を確実にやっていくことを盛り込むことが肝要である。

【引用参考文献】

ブラシの形態による舌清掃効果のちがいについて
伊東佳代子他 日本接触・嚥下リハビリテーション学会雑誌 2009/8 他